

【和鉄の道 2025】【鉄の話題 隕鉄鉄器の復元】インターネット掲載の整理転記
 人類・鉄創世記—宇宙の賜物・隕鉄を素材とする、原始鍛冶の復活へ—【4】
<https://readyfor.jp/projects/meteorite/announcements/383062>



私も松山で隕鉄を鍛えています

2025.8.16.発信

人類・鉄創世記プロ リーダー— 愛媛大学教授 村上恭通

【速報】隕鉄に肥後象嵌、大成功！ 隕鉄とホルスの目が合体

2025年08月18日 15:08 発信



復元した隕鉄製鉄器の一部

みなさまのご支援を受けてプロジェクトが成立した後、隕鉄を集めて鍛造を始めてほぼ一年となりました。現在までのところ、アルタイ隕鉄(中国新疆ウイグル自治区産)、カンポ・デル・シエロ隕鉄(アルゼンチン)、キャニオン・ディアブロ隕鉄(アメリカ合衆国)、ムオニオナルスタ隕鉄(スウェーデン)を得ることができ、鍛えてきました。しかし、これまでいく度か報告して参りましたように、鍛えてうまく延び、変形する隕鉄はかなり限られることを経験して参りました。

通常の鉄や鋼は鍛冶炉内で十分に熱していない状態で鍛打した場合でも碎けることはありません。

しかし隕鉄の場合、粉々に碎け散る場合があります。キャニオン・ディアブロ隕鉄はその最たるものです。

隕鉄内部の亀裂の多さや錆化の深度が原因であると理解しています。

それに対し、アルタイ隕鉄やカンポ・デル・シエロ隕鉄は鍛造時に碎けることもありますが、わずかに亀裂が観察される程度で変形したり、時には何の問題もなく変形し、復元品が完成する場合があります。

鍛造に適した隕鉄との遭遇は当時の鍛冶師にとっても至難であったと想像します。

隕鉄を鍛えて初めてわかる灼熱の塊内部の大きな亀裂、そして鍛造続行の断念……

当時の鍛冶師と同じ体験や思考をし、辛苦を共有したのではないかと少々感慨に浸っています。

■ 人類・鉄創世記 —宇宙の賜物・隕鉄を素材とする、原始鍛冶の復活へ— 【1】【2】【3】【4】【5】【6】

■ 和鉄の道・Iron Road Top Page <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

さて本プロジェクトでは地球最古の鉄器であるエジプト・ゲルゼ墓地のビーズを筆頭に 25 点の隕鉄製鉄器復元を目指しています。現在 20 点は復元が完了し、その半分は研磨もほぼ終了しています。あと 5 点ほど、鍛造しなければなりません。私はこれからモンゴルに渡り、古代遊牧民の製鉄遺跡を発掘調査します(8月20日～9月12日)。その5点は帰国後、着手することになります。

隕鉄を鍛え始めて約一年。鍛造に適した隕鉄の獲得に予想以上に時間を要し、鉄器の完成が少し遅れています。このような状況ですから私も隕鉄を鍛造しています。

松山には「釘千年の命」で知られる故白鷹光伯さんという野鍛冶がいらっしゃいました。

私が約30年前、松山に赴任した際、あいさつに行くと「来るのを待ったよ」と迎えていただきました。

古代の大工道具に通じ、考古学の本や論文も本棚に並べる人でした。弥生時代や古墳時代の鍛冶に関する私の研究に関心をいただき、私自身もその工房で何度もご指導いただきました。石の鎚と鉄床による弥生鍛冶の復元はこの工房で初めて行われました。現在、ご子息である興光さんがそのあとを継いで庖丁や釘を鍛えていらっしゃいます。

今、私はここで興光さんの仕事を邪魔しないように、時々手伝っていただきながら土日を中心に隕鉄を鍛えています。

もちろん鎚は銅製、鉄床は石。鉄床だけはどうしてもいい代用品がなく鉄製を使用しています。工房にはエアコンはもちろん扇風機もなく、とにかく暑く目がくらむほど。ですが、灼熱の隕鉄に銅の鎚を通じて私の力が伝わる感触を楽しませていただいています。



隕鉄を鍛造しています(白鷹鍛造所・松山)

人類・鉄創世記プロ リーダー 愛媛大学教授 村上恭通 2025.8.16.発信

【速報】 隕鉄鍛造円盤を使って肥後象眼の取組 製作 肥後象眼「光助4代目」大住裕司さん

隕鉄に肥後象嵌、大成功！ 隕鉄とホルスの目が合体 2025年08月18日 発信



肥後象嵌 光助



光助4代目 大住裕司さん(左)と私



松山で鍛えて研磨した隕鉄製円盤

昨年4月22日(火)にネクストゴール(第二目標)もクリアし、以後のご支援の用途として隕鉄加工の可能性を考えた次の取り組みを考えました。その一つが隕鉄に象嵌が可能かどうかを検証するというものでした。

象嵌とはある素材に異なった素材を嵌め込む技術です。

私の故郷、熊本は肥後象嵌が有名な伝統工芸として知られています。

なかでも「肥後象嵌 光助」は老舗として有名です (<https://mitsusuke.com/>)。

現在は4代目の大住裕司さんがその技術を伝えています。

私も35年前、先代に江田船山古墳の刀の象嵌にあやかって馬をあしらったタイピンを作っていただきました(ウマ年の恩師、故潮見浩先生に謝恩の意を込めて謹呈しました)。

隕鉄鍛造円盤を使って肥後象眼の取組

果たして隕鉄に象嵌ができるのかどうか。大住さんに相談すると、できるかどうかわからない、隕鉄中に傷が多いようであれば難しいかもしれない、とはじめは慎重でしたが、挑戦してみようと松山で鍛造し成形した隕鉄の小型円盤を受け取っていただきました。

隕鉄はカンポ・デル・シエロ産。

大まかに形を整えて、さらに両面を研磨すると数の細かな亀裂がありました。

それでも大住さんには取り組んでいただきました。ただ、あろうことか文様を考えていませんでした。

熊本城の別称「銀杏城」を思いつき、イチヨウはどうかと考えましたが、

その次に隕鉄→ツタンカーメン王→古代エジプトと連想し「ホルスの目」に辿り着きました。

挑戦だという大住さんのお言葉以降、自分自身も隕鉄鍛冶に追われて肥後象嵌を失念していましたが、なんと本日(18日)、完成品が届きました。すばらしい。魅力的です。

是非多くの方々に見ていただきたいと思います。

肥後象嵌ホルスの目をもつ隕鉄円盤、世界で一つのものではないかと思います。

肥後象嵌ホルスの目をもつ隕鉄円盤 製作 肥後象眼「光助 4代目」大住裕司さん



隕鉄に金象嵌されたホルスの目



裏面の小さなイチヨウの葉
中央に大きな亀裂が見られる

明後日(20日)のモンゴル出発を前にただただ機械的に準備に追われていましたが、肥後象嵌ホルスの目の来臨に言葉を失い、笑みがこぼれ、瞬間でしたが心が満たされました。さらに細かな亀裂がさらに多い裏面には小さなイチヨウが象嵌されており、これにも救われました。4代目光助の技と仕掛けに。支援者のみなさまにもリアルタイムで共有させていただきます。

人類・鉄創世記プロ リーダー— 愛媛大学教授 村上恭通 2025.8.18.発信

隕鉄鉄器の復元プロジェクトの成果が着々と

当時の製作技術を探りながらの原始隕鉄鉄器の復元が可能なのかと興味津々のプロジェクト進行。

隕鉄鉄器素材の製作も進み、隕鉄鉄器復元製作のターゲット「明珍火箸製作」も始まった。

先行して取組まれた隕鉄鍛造円盤素材を用いての肥後象嵌製作の成功 うれしい隕鉄鉄器製品が一つ現実。原始鉄器製作プロセスが一つ一つ解き明かされてゆく。

私にはもう一つ 気になる隕鉄素材表面のあの美しいウイドマンステッテン模様 どう変化しただろうか……

From Kobe Mutsu Nakanishi

【和鉄の道 2025】【鉄の話題 隕鉄鉄器の復元】インターネット掲載の整理転記

人類・鉄創世記 —宇宙の賜物・隕鉄を素材とする、原始鍛冶の復活へ— 【4】

<https://readyfor.jp/projects/meteorite/announcements/383062>

5. 私も松山で隕鉄を鍛えています 愛媛大学教授 村上恭通 2025.8.16.発信

【速報】隕鉄に肥後象嵌、大成功！隕鉄とホルスの目が合体

2025年08月18日 15:08 発信

■人類・鉄創世記 —宇宙の賜物・隕鉄を素材とする、原始鍛冶の復活へ— 【1】【2】【3】【4】【5】【6】

■和鉄の道・Iron Road Top Page <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>